

「三省まつり」 明日はいよいよ本番！

「めあて（見通し）」と「ふり返り」で「次につなぐ」という流れで取り組んできた全校発表や学級発表。昨日の「子ども三省まつり」では、互いの学年発表に興味津々で見入る子どもたちの姿が印象的でした。また、自分たちの演技にどっぷり入り込んでいる姿が、とてもほほえましかったです。

今日の発表全体を通して伝わってきたことは、「自分たちが伝えたいことを、しっかりと持っている」「自分たちで表現方法を考えてやっている」「自分たちの力でやることに充実感を感じている」という子どもたちの主体的な態度の高まりでした。これらに結びつけた、これまでの「めあて（見通し）」と「ふり返り」の中からいくつかをご紹介します。



「今日の練習では、歌、合奏で心を一つにすることができました。ましがいのあったダンスを直すことができた。この次は明るく元気な笑顔でやれるようにして、中川地域が元気になるようにしましょう。」

(8/31：6年 S. さん)



「今日のめあては『笑顔と元気で、入退場をがんばろう』です。今日の練習で、しっかりと自分の場所に立てるようにしましょう。」

(9/7：6年 S. さん)

「今日のめあては『42人の一生懸命な笑顔と元気を、心を一つにして伝えよう』です。今日の練習では、ダンスのときには右と左をそろえて、（全校音楽のときには）歌と合奏を聴き合って笑顔と元気を心を一つにして伝えられるようにしましょう。」

(9/12：5年 Y. さん)



さあ、明日はいよいよ「三省まつり」の本番です。今年のテーマ「みんな心一つに最高の笑顔と元気をとどけよう！」を達成すること、そして、中川地域をさらに元気にできることを強く願っています。中川っ子の一生懸命な姿に大きな声援と温かい拍手をお願いします。



全国学力テストの結果ができました

8月29日（火）の新聞報道等でもご存じの通り、4月18日に（火）に実施された全国学力学習状況調査の結果が発表されました。

この学力調査から見える中川小学校6年生の状況は、国語のA・B、算数A・Bいずれも全国平均、秋田県平均をとともに上回り、満足できる状態にあると言えます。A問題の基礎的な事項はよく身に付いています。B問題を見ると、国語では「取り上げる内容」「ふさわしい言葉遣い」「指定された文字数」などの与えられた条件に合わせて答えたり文章構成を考えて書いたりすること、算数では場面や状況に合わせ、数学的思考を働かせて解く問題が課題となりそうです。

学習状況調査からは、家庭学習の習慣が身につけていること、学習の中で友だちと話し合ったり協力して何かをなしとげたりする体験が充実していること、将来の夢や目標を持っていること、自分にはよいところがある、将来人の役に立つ人間になりたいなどの自己有用感の高いことなどが、子どもたちの学力を支えていると言えそうです。また、学校と家庭、地域がしっかりと連携していることが、子どもを支える豊かで確かな土壌となっていることも間違いありません。

しかし、学校の授業以外の時間に読書をする、家の人と将来のことについて話すこと、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることなどについては、比較的大きな個人差が見られ、今後の課題と言えそうです。これらのことについては、今年度の本校経営の重点とも重なっておりますので、今後、一人一人の力を一層伸ばすための資料として本調査結果を活用していきたいと思っております。

小さい封筒に入れるためには、長方形の紙を3つに折る必要があります。

手紙の用紙には、同じはばに並んだ13本の平行な直線がひかれています。ゆりえさんは、手紙を3つに折るために、もう1枚の手紙の用紙を使おうと考えました。そして、下の図のように、1本目と13本目の直線に手紙の両はしをあわせて、3等分する点を見つけました。

ゆりえさんは、手紙をなるべくきれいに3つに折るために、先ずから3等分する点を見つける方法を教えてもらいました。

3等分する点を見つける方法

- ① 同じはばに並んだ4本の平行な直線の、1本目の直線と4本目の直線に手紙の長い辺の両はしをあわせる。
- ② 2本目、3本目の直線と手紙の長い辺が交わった点、手紙の長い辺を3等分する点になる。

1本目
2本目
3本目
4本目

② 13本の直線のうち、手紙の長い辺と交わった点、その辺を3等分する点になるのは、上から何本目と何本目の直線ですか。答えを書きましよう。

同じはばに並んだ直線を4本使って、直線と直線の間が3つになるので、3等分する点を見つけることができるんですね。

← 算数Bの問題

手紙を封筒に入れる場面をもとにして、長方形の紙（便せん）を三つ折りにする方法を考えます。

左下の「等間隔にならんだ4本の平行な直線」では比較的簡単にできることを、手元にある便せんを使ってやるにはどうすればいいかということが問われています。

このように「三つ折りにする」という作業を条件を変えてもできるかという力が求められています。



角館のお祭りが終わりました

「力を出して山車を引いた」「踊りやお囃子をがんばった」「出店が楽しかった」参加の仕方はそれぞれでしたが、子どもたちがお祭りを安全に楽しむことができたようでよかったです。

9月7日の宵宮際は雨模様となりましたが、8・9日は好天に恵まれ、多くの人でにぎわっていました。昨年11月にユネスコの無形文化遺産に登録されたこともあり、例年よりも観光客が4万人ほど多かったということも耳にしました。祭りに参加している人々を間近で見ていると、角館という郷土への愛着心や誇りが伝わってきました。大人、中高生、小学生と各年代間で引き継がれていくものの大切さを改めて感じたところです。このような郷土の伝統を学校教育の中でも生かしていき、ふるさとへの愛着心を高め、「ふるさとのために、今の私たちにできることはないか。」という問題意識を高めていきたいと思っております。